

伊丹市スポーツ推進計画(第4章以降)の見直し案

第4章 “するスポーツ”の推進

現行計画 (左欄は現行計画冊子のページ)		審議会意見・スポーツ推進委員意見・市民アンケート結果等	見直し案
P.18	<p>重点施策1 幼児・子どもの実施者を増やす</p> <p>取組3: 幼児・児童・生徒において、運動・スポーツ好きを増やす 子ども達が運動・スポーツを好きになるには、「できる」「できない」、「得意」「不得意」に関わらず、まずはどの子にも身体を動かすことのそもそもの楽しさや喜びを感じてもらふ必要があります。 そのために、各学校園で行う体育の授業等の内容に「遊び」「ゲーム」の要素を多分に盛り込む等工夫・改善を行い、実践することで、子どもたちの運動・スポーツに対する苦手意識の払拭を図ります。</p>	<p>【スポーツ推進委員】</p> <p>○子どもたちのスポーツをする場が減らないように。習い事や高い授業料でやっていける子どもばかりではない。体験会などを開催すると「楽しかった」、「体を動かしたい」という意見が多い。少しずつでもスポーツに触れる機会を増やしていくのがよい。</p>	<p>取組3: 幼児・児童・生徒において、運動・スポーツ好きを増やす 子ども達が運動・スポーツを好きになるには、「できる」「できない」、「得意」「不得意」に関わらず、まずはどの子にも身体を動かすことのそもそもの楽しさや喜びを感じてもらふ必要があります。 そのために、各学校園で行う体育の授業等の内容に「遊び」「ゲーム」の要素を多分に盛り込む等工夫・改善を行い、実践することで、子どもたちの運動・スポーツに対する苦手意識の払拭を図ります。 また、学校園以外の地域等においても子どもたちが、等しく自由に参加ができる、運動やスポーツを楽しむ機会を提供します。</p>
P.19	<p>取組4: 運動部活動における外部指導者を充実する 中学校の運動部活動において、教育に理解と識見を備えた地域住民や教員OB、卒業生等による外部指導者を配置しています。 さらに、専門的技術や指導力のある外部指導者を充実させるため、外部指導者の待遇向上、学校と地域との情報連携、学校と潜在的な地域人材とのマッチングを図ります。</p>	<p>【審議会】</p> <p>○前回の資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」に対して、意見なし。</p>	<p>※前回の資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」のとおり、第6章・重点施策3に集約 (→P.8)</p>
P.20	<p>重点施策2 若者・壮年の実施者を増やす</p> <p>取組2: スポーツクラブ21における壮年の会員を増やす スポーツクラブ21は「だれもが、いつでも、身近なところで」スポーツができることを目指した地域住民の自発的・主体的運営によるスポーツクラブであり、伊丹市では、現在市内17全小学校区でスポーツクラブ21が設立され活動しています。 スポーツクラブ21という既存の地域資源を壮年の運動・スポーツ実施の場として活かすため、スポーツクラブ21への加入を促すようその魅力や特徴等についてより一層のPRを図ります。</p>	<p>【審議会】</p> <p>○資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」に対して、意見なし。</p>	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」のとおり、第4章・重点施策5に集約 (→P.4)</p>
	<p>新規追加</p> <p style="text-align: center;">修正追加</p>	<p>【その他】</p> <p>○国の第3期スポーツ基本計画との整合性。 ○令和3年度にスポーツセンターが厚生労働省の健康増進施設の認定を受けた。</p>	<p>取組3 医療とスポーツの連携を促進する スポーツの実施は健康増進効果や生活習慣病等の予防にも重要な要素となっています。令和3年度にスポーツセンターが厚生労働省の健康増進施設の認定を受けたことをアドバンテージとし、医療機関と連携・協力のもと、健康増進を目的とした安全かつ適切な運動プログラムの実施を図ります。また、スポーツに関心の無い市民に対して、スポーツと健康についての情報発信を行い、スポーツ実施率の向上を目指します。</p>

第4章 “するスポーツ”の推進

現行計画（左欄は現行計画冊子のページ）		審議会意見・スポーツ推進委員意見・市民アンケート結果等	見直し案
P.21	<p>重点施策3 女性・高齢者・ファミリーの実施者を増やす</p> <p>仕事をもつ女性や育児中の女性は、運動やスポーツを「行いたいができない」人も多いのが現状です。家族の理解・協力を得ながら、隙間時間を活用し、一人又はファミリーで運動・スポーツができる環境づくりが必要です。</p> <p>また、日本人の平均寿命は83.7歳（世界保健統計2016）となっており、依然として世界一の長寿国です。以下、2位はスイスで83.4歳、3位はシンガポールで83.1歳と続きます。</p> <p>定年退職を迎えた方が、有り余る自由な時間をいかにして過ごすかは個人の自由に委ねられています。しかし、それぞれが出来る限り活動的で健康的な生活の実践によりいきいきと豊かな人生を歩んだ方が、活力あるまちづくりにつながります。今後、人生80年、90年時代を迎えるにあたり、自らの健康は自らの力で保持・増進するという考えが求められます。</p> <p>それぞれの世代が、それぞれのライフステージにおいて、豊かなスポーツライフを過ごすことが、生活の質（クオリティ・オブ・ライフ：QOL）を高め、生きがいに満ちた人生につながります。</p>	<p>【市民アンケート】</p> <p>○問4「あなたは、この1年間においてどの程度の頻度でスポーツ・運動を行いましたか」について、週に1日以上運動を実施していると答えた方は、男性が49.9%、女性が46.1%で、女性の方がスポーツ・運動の実施率が低い。</p> <p>→現状追加。</p> <p>【その他】</p> <p>○平均寿命の数値を更新。</p>	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子（素案）」に基づき、文案追加。</p> <p>市民アンケートの結果から、女性のスポーツ実施率は、男性に比べ、依然として低い傾向にあります。女性の心身の健康増進のため、女性が気軽にスポーツに親しめる環境づくりが必要です。</p> <p>また、日本人の平均寿命は84.3歳（世界保健統計2022）となっており、世界一の長寿国ですが、平均寿命の延び以上に健康寿命を延ばし、それぞれが出来る限り活動的で健康的な生活の実践によりいきいきと豊かな人生を歩むことが、活力あるまちづくりにつながります。今後、人生80年、90年時代を迎えるにあたり、自らの健康は自らの力で保持・増進するという考えが求められます。ファミリー層に対しては、家族が揃ってスポーツを実施する楽しさを知ってもらうため、2世代、3世代が共に行えるスポーツを推進します。</p> <p>それぞれの世代が、それぞれのライフステージにおいて、豊かなスポーツライフを過ごすことが、生活の質（クオリティ・オブ・ライフ：QOL）を高め、生きがいに満ちた人生につながります。</p>
P.21	<p>取組1：女性や高齢者が楽しめる教室やイベント等を充実する</p> <p>家事や育児で忙しい女性が運動・スポーツを行いやすいように、気軽に参加できるスポーツプログラムを提供したり、市スポーツ施設における託児サービスの実施・充実を行う等、スポーツ実施の阻害要因に応じた取り組みを図ります。</p> <p>また、今後ますます高齢化が進展するため、介護予防の観点からも、環境・嗜好適性に応じて、無理なく日常的に取り組むことができる運動・スポーツプログラムを提案し、高齢者に対するスポーツへの参加機会の提供を継続して行うとともに、その普及・啓発を図ります。また、日頃地域のコミュニティで気軽に実施できるニュースポーツに係る情報提供を行い、必要な道具も充実させ貸し出し等も行うことで、高齢者が日常的にスポーツに親しみ、健やかで豊かな生活を送ることができるよう活動を支援します。</p>	<p>【審議会】</p> <p>○高齢者、障がい者、子ども、貧困、ひきこもりといった方に対するスポーツの関わり方を考えると、スポーツは案外難しい面もある。ゆるいスポーツとかやさしいスポーツ、軽く体を動かしていけるようなスポーツやお金のかからないスポーツをアピールしてはどうか。</p> <p>○市が行っている65歳以上を対象としたロコモ検診等の結果も参考に、活用してはどうか。</p> <p>【スポーツ推進委員】</p> <p>○育児中の女性のスポーツ参加には、託児が必要。高齢者は足、膝が悪くなりスポーツから遠ざかることも多い。座ってできる100歳体操も良いが、市内にはウォーキングコースもあるので、ノルディックやポールウォーキングの促進で、日常生活も有意義になるのでは。イベントや、ポール（ノルディック）の貸出しがあるとよい。</p> <p>○スポーツをする機会、誰でも参加しやすいものがあると良い。入口を広くすることが大切。</p> <p>【市民アンケート】</p> <p>○問5「あなたが、週に1日以上頻度でスポーツ・運動を実施しなかった理由は何ですか」について、仕事・家事が忙しいからと回答した人が一番多い。</p> <p>→現状追加。</p>	<p>現状では育児、家事等の負担が大きいことが多い女性が、運動・スポーツを行いやすいように、いつでも気軽に参加できる「ゆるスポーツ（運動が苦手な人でも、誰もが気軽に楽しめるスポーツ）」などのスポーツプログラムの提供や、スポーツ施設における託児サービス等の拡充に取り組みます。また、スポーツが実施できなかった理由のトップは、性別を問わず、仕事や家事が忙しいことでした。女性をはじめ誰もが、身体を動かすことを楽しみ、健康増進意識が高まるよう、隙間時間でできる運動の情報等の提供を図ります。</p> <p>また、今後ますます高齢化が進展するため、介護予防の観点からも、特定検診等の結果を活用した運動の提供を継続して行います。また環境・嗜好適性に応じて、無理なく日常的に取り組むことができるウォーキングをはじめ、ポールウォーキング等の新しいスポーツやラジオ体操等を取り入れた運動・スポーツプログラムを提案し、高齢者に対するスポーツへの参加機会の提供を継続して行います。さらに、地域のコミュニティで気軽に実施できるニュースポーツに係る情報提供を行い、必要な道具も充実させ貸し出し等も行うことで、高齢者が日常的にスポーツに親しみ、健やかで豊かな生活を送ることができるよう活動を支援します。</p>

第4章 “するスポーツ”の推進

現行計画（左欄は現行計画冊子のページ）		審議会意見・スポーツ推進委員意見・市民アンケート結果等	見直し案
P.22	<p>重点施策4 障がい者の実施者を増やす 修正追加</p> <p>平成32(2020)年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、スポーツ行政が一元化されるなど、今後障がい者スポーツの進展が期待される一方で、障がい者スポーツに対する認知度や実施率は未だ低いものです。</p> <p>本市においても、障がい者が身近な地域でスポーツに親しめるよう、障がい者スポーツを支える人やバリアフリー化された施設を確保するなど、障がい者がスポーツに親しめる環境づくりを図るとともに、広く理解を広めます。</p>	<p>【審議会】</p> <p>○障害者スポーツ協会に係る連携について、アイ愛センター(社会福祉協議会)との連携はできているが、スポーツセンター、緑ヶ丘体育館、スポーツ推進委員とは十分でない部分もあると思われる。指定管理者やスポーツ推進委員と上手く連携ができれば、障がい者スポーツの受け皿は今後も広がる余地があるのではないかと。</p>	<p>令和3年(2021)年に開催された東京パラリンピック大会を機に、パラスポーツも一定の注目をされましたが、世間一般での障がい者スポーツに対する認知度や実施率は未だ低いものです。</p> <p>本市においても、障がい者が身近な地域でスポーツに親しめるよう、障がい者スポーツを支える人やバリアフリー化された施設を確保するなど、障がい者がスポーツに親しめる環境づくりを図ります。また障害者スポーツ協会と、他スポーツ関係団体やスポーツ施設との連携を向上させることで、障がい者がスポーツを実施しやすい環境づくりに努めます。</p>
P.23	<p>取組3:スポーツクラブ21における障がい者の会員を増やす</p> <p>スポーツクラブ21が目指す「だれもが、いつでも、身近なところでスポーツにふれあう環境づくりを、「障害の有無にかかわらず」実現させるため、障がい者の会員数の増に取り組めます。</p> <p>まずは、市内各スポーツクラブ21に障がい者スポーツの導入を促し、障害があっても、気兼ねなくクラブに加入でき、クラブを自身の居場所のひとつにできるような風土づくりに努めます。</p> <p>導入にあたっては、迎える会員側が未経験であってもスムーズに対応できるよう、障害に関する最低限の情報をまとめたマニュアルの作成等を、伊丹市障害者スポーツ協会や市障害福祉課等との連携・協力のもと進めます。</p> <p>また、障害者スポーツ指導者講習会等研修の開催に係る情報についても積極的に発信し、障がい者スポーツの指導をできる人を増やすことで、障がい者のニーズに対応できるようにします。</p>	<p>【審議会】</p> <p>○資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」に対して、意見なし。</p>	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」のとおり、第4章・重点施策5に集約（→P.4）</p>

第4章 “するスポーツ”の推進

現行計画（左欄は現行計画冊子のページ）		審議会意見・スポーツ推進委員意見・市民アンケート結果等	見直し案
重点 施策 5 ス ポ ー ツ ク ラ ブ 2 1 の 充 実	新規追加	<p>【スポーツ推進委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○会員数の増加に取り組むことが重要である。 ○既に各クラブが会員増に頑張っているが結果が伴っていない現状を踏まえると、現在各クラブが行っている「魅力や特徴のPR」では、会員増につながらないのだろう。 <p>【市民アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問13「各小学校区に設立されているスポーツクラブ21についておたずねします」について、スポーツクラブ21を知らないと回答した人が59.7%だった。 →スポーツクラブ21のPR活動を重点的に行うことが必要。 	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」の文案に、加筆修正。</p> <p>スポーツクラブ21は「だれもが、いつでも、身近なところで」スポーツができることを目指した地域住民の自発的・主体的運営によるスポーツクラブです。伊丹市では、市内17全小学校区でスポーツクラブ21が設立され活動しています。</p> <p>設立から約20年が経過し、各クラブにおいて、会員数の減少や財源の確保等、様々な課題があります。また、中学校部活動の地域移行に関して、スポーツクラブ21が受け皿の一つとして想定されています。一方で、市民アンケートでは59.7%の人がスポーツクラブ21を知らないという結果が出ており、市民の認知度が未だ低いことがわかりました。</p> <p>今後、地域スポーツクラブとしての機能を強化し、地域の実情に応じた弾力的な運営を進め、その活動内容を広く市民に周知することで、会員数の増加を図り、スポーツによる地域の活性化を図ります。</p>
	新規追加	<p>【スポーツ推進委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○魅力や特徴など、各地域の特色を出す努力が必要。 ○各クラブではできないPR方法など具体案の盛り込みが必要。 ○少子高齢化の現状で、高齢者をはじめ、誰もが気軽に参加できるためには、ニュースポーツの充実のほか、健康維持やストレス解消などの「遊びのスポーツ」の比重をもっと上げて良いのでは。 ○サッカー、野球、バレーボール等に所属している子どもたち以外が参加できる場が少ない。小学生のうちにはスポーツに限定せず、遊びながら体を上手く使えるようになっていく遊びの教室的な活動があればと思う。(鬼ごっこ、しっぽ取り、ドッジボール、縄跳びなど) <p>【市民アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問15「あなたは、スポーツクラブ21においてどのような活動が行われていれば加入したいと思いますか」について、「ゆるスポーツができる」と回答した人が最も多かった。 →ゆるスポーツといった気軽に参加できるスポーツが必要。 	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」の文案に、加筆修正。</p> <p>取組1:スポーツクラブ21の会員数を増やす</p> <p>年齢・性別、体力や技能、障害の有無にかかわらず、地域住民だれもがいつでも入会することができ、自分にあったスポーツ活動が楽しめるよう、地域住民のニーズに応じた多様なイベント・大会等のスポーツ活動を行い、スポーツクラブ21の会員数の増に取り組みます。</p> <p>また、スポーツ実施率が低い若者・壮年や障がい者が気兼ねなくクラブに加入し、クラブを自身の居場所のひとつとし、継続して参加できるような風土づくりに努め、スポーツクラブ21への加入を促すよう、その魅力や特徴等についてより一層のPRを図ります。</p>
	新規追加	<p>【審議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校部活動の地域移行において、国はSC21の指導者が指導を引き受けることを想定していると思われる。SC21の充実と部活動の地域移行をリンクして考えてはどうか。 ○スポーツクラブ21の仕組みは国の総合型地域スポーツクラブの設立時に、リードしていた仕組みなので、引き続きうまく回っている事例を作れたら良いと思う。 ○登録認証の支援をして、次のステージにクラブが発展していけるような支援をしていくのはどうか。スポーツクラブは伊丹の大きな資源であるので上手く活用すべき。 ○スポーツクラブ21に障がい者を参画しようという視点はこれからの取組であるので、地域の住民当事者が参画できる仕組み作りを教育や福祉行政の部局が連携し行う機会になるのではないかと。 <p>【スポーツ推進委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○壮年の会員、障がい者の会員を増やすには、専門知識を持った質の高い指導者が必要。また、そのような指導者がいることがSCの魅力に繋がるのでは。 ○運営体制の強化は必要だが、課題を各団体、組織で共有した後でどうするのか具体がないと運営の強化につながらない。 ○SC21の活性化や運営を推進するために、特別支援学校の教員とSC21会員とが連携できる会議体の設置をしては。 	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」の文案に、加筆修正。</p> <p>取組2:スポーツクラブ21の運営体制を強化する</p> <p>会員や指導者、運営スタッフ等の人材確保、財政基盤の確立等、現在クラブが抱える課題を、クラブと行政やスポーツ団体、地域自治組織等が共有し、解決に向けて連携・協働ができるような体制整備を行います。</p> <p>また、中学校部活動の地域移行に備え、スポーツクラブ21において新たな環境整備を行う場合は、中学生のスポーツ活動の機会を確保するという観点だけでなく、地域住民にとってもより良い地域スポーツ環境となる必要があります。</p> <p>障害がある方もスポーツに参加しやすくするため、障害に関する情報等を記載したマニュアル等の作成や障がい者スポーツの指導ができる人材の養成等を、クラブやスポーツ団体、市障害者スポーツ協会等との連携・協力のもと進めます。</p>

第5章 “みるスポーツ”の推進

現行計画（左欄は現行計画冊子のページ）		審議会意見・スポーツ推進委員意見・市民アンケート結果等	見直し案
P.25	<p>重点施策</p> <p>2</p> <p>“みるスポーツ”文化の充実</p> <p>東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催を控え、スポーツとのかかわり方のうち「みる」ことへの関心が高まっています。みる人のマナーを含むスポーツ文化を享受する資質や知識を高める機会の提供、魅力的なスポーツイベント等の誘致など、関係機関・団体との連携による各種事業を実施し、「みる」をはじめとするスポーツへの主体的な参画の定着・拡大を図ります。</p>	<p>【その他】</p> <p>○東京オリンピック・パラリンピックの終了に伴い、表現を一部修正。</p>	<p>東京2020オリンピック・パラリンピック大会が開催され、スポーツとのかかわり方のうち「みる」ことへの関心が高まりました。引き続き、みる人のマナーを含むスポーツ文化を享受する資質や知識を高める機会の提供、魅力的なスポーツイベント等の誘致など、関係機関・団体との連携による各種事業を実施し、「みる」をはじめとするスポーツへの主体的な参画の定着・拡大を図ります。</p>
P.26	<p>取組2:東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けて、オリンピック教育とパラリンピック教育を推進する</p> <p>東京2020オリンピック・パラリンピック大会を子どもたちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、オリンピック・パラリンピックの歴史・意義や国際親善など、その果たす役割を正しく理解することを目的に「オリンピック・パラリンピック教育」を通して、「ボランティアマインド」「障がい者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」を育みます。</p>	<p>【審議会】</p> <p>○資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」について、意見なしのため、素案どおり削除。</p>	<p>—————</p>

第6章 “ささえるスポーツ”の推進

現行計画（左欄は現行計画冊子のページ）		審議会意見・スポーツ推進委員意見・市民アンケート結果等	見直し案
P.28	<p>取組1:質の高い指導者養成を推進する</p> <p>各競技種目に必要とされる、専門的・技術的な指導力に加え、科学的根拠やスポーツ医科学に関する知識を活用した指導を行う能力も求められるため、多様な世代、レベルに応じた指導が行える指導者養成講習会について研究を行います。また、地域の指導者のニーズを把握し、必要とされる研修会の実施を図ります。</p> <p style="text-align: right;">修正追加</p>	<p>【スポーツ推進委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導者研修の一環として、コーチングアシスタント(公認基礎資格)の取得を推進しては。 ○指導者が古い考え方や間違っただ指導方法をしないよう、研修会・勉強会の実施や情報提供が必要。 ○各クラブに対応する競技団体の指導者研修会等への積極派遣。 ○質の高い指導者の養成と活用のため、スポーツ指導者を登録制とし、あらゆる指導者への研修が必要。 	<p>取組1:質の高い指導者養成を推進する</p> <p>指導者は、各競技種目に必要とされる専門的・技術的な指導力に加え、高い倫理観を持ち、競技者を中心に考えて指導を行える能力が必要になります。また科学的根拠やスポーツ医科学に関する知識を活用した指導を行う能力も求められます。</p> <p>地域の指導者のニーズを把握し、多様な世代、レベルに応じた指導が行える研修会の開催や、新しい情報を取り入れるために他団体が開催する研修会への積極的派遣を行います。また、公認資格の取得支援や指導者の登録制を実施することで、指導者の質を向上させます。</p>
P.28	<p>重点施策</p> <p>1</p> <p>質の高い指導者養成と活用</p> <p>取組2:部活動指導員の活用を推進する</p> <p>生徒数の減少に伴い、教員数も減少している中、安全面等を考慮し、複数顧問制を導入しています。このような現状を踏まえ、教職員の負担軽減の視点に立ち、技術指導が十分でない部活動を対象に技術指導支援に努める等、部活指導員の活用を推進します。</p>	<p>【審議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」に対して、意見なし。 	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」のとおり、第6章・重点施策3に集約（→P.8）</p>
	<p>新規追加</p>	<p>【審議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツインテグリティに取り組んでいくことが重要ではないか。 ○国全体でも定期的に問題が上がっており、研修会等でも取り組むべき非常に重要なテーマではないか。 <p>【スポーツ推進委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○不適切な指導があった際に、いつでも相談できる窓口などのセーフティーネットが必要。現状の環境・体制は不十分では。 	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」の文案に、加筆修正。</p> <p>取組2:スポーツを実施する者の心身の安全・安心を確保する</p> <p>スポーツを実施する者が、周囲からの暴力・不適切指導等を理由にスポーツから離れたり、スポーツに親しむ機会を奪われないよう、各スポーツ団体と連携し、スポーツ分野におけるあらゆる暴力・不適切指導等の根絶に努めるとともに、民間も含めた相談窓口等の周知を行います。</p> <p>またスポーツ事故やスポーツ障害を防止するため、これまでの事故事例の情報提供や指導者研修を充実させ、一人一人が安全・安心に、楽しくスポーツを実施できる環境を整備します。</p>
P.29	<p>取組4:女性スポーツ指導者及び役員の登用・活用を推進する</p> <p>平成29(2017)年度現在、伊丹市における女性スポーツ指導者及び役員の内訳は、伊丹市スポーツ推進委員34名中女性21名、伊丹市体育協会役員21人中4名、伊丹少年スポーツ指導者連絡協議会役員22名中5名、武道連絡協議会10名中2名となっています。現状からもわかるように、伊丹市内のスポーツ団体においては、構成員が男性多数の組織が多いため、女性指導者及び役員の登用・活用を図るよう推進します。</p> <p style="text-align: right;">修正追加</p>	<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○役員の人数を、2022年の数値に更新。 	<p>取組3:女性スポーツ指導者及び役員の登用・活用を推進する</p> <p>令和4(2022)年度現在、伊丹市における女性スポーツ指導者及び役員の内訳は、伊丹市スポーツ推進委員34名中女性17名、伊丹市スポーツ協会役員21人中7名、伊丹少年スポーツ指導者連絡協議会役員20名中4名となっています。現状からもわかるように、伊丹市内のスポーツ団体においては、構成員が男性多数の組織が多いため、女性指導者及び役員の登用・活用を図るよう推進します。</p>

第6章 “ささえるスポーツ”の推進

現行計画（左欄は現行計画冊子のページ）		審議会意見・スポーツ推進委員意見・市民アンケート結果等	見直し案
P.28	<p style="text-align: right;">修正追加</p> <p>重点施策2 スポーツボランティアの育成と活用</p> <p>取組1:スポーツボランティアの啓発とモチベーション(動機づけ)を高める ボランティア指導者やスポーツイベントにおける“スポーツ・ボランティア”は、「するスポーツ」や「みるスポーツ」をサポートし、さらには競技種目を盛り上げ、選手や観客の増加を図るうえでも重要な存在です。また、学校のクラブや地域のスポーツ団体などで指導者やまとめ役となつて、地域社会におけるスポーツ振興や健康づくりに貢献する人材としても期待されます。 これまでスポーツボランティアとして各種大会等に参加したことが無い人たちの動機づけとなるよう周知・啓発に努めるとともに、ボランティアを必要とする大会や団体に関する情報提供を積極的に行います。</p>	<p>【市民アンケート】 ○問20「あなたは、どのようなきっかけや動機づけ(モチベーション)があれば、スポーツ・運動に関するボランティア活動を行いたいと思いますか」について、出会い・交流の場と回答した人が一番多かった。 →出会い・交流の場になるような施策が必要。</p>	<p>取組1:スポーツボランティアの啓発とモチベーション(動機づけ)を高める 市民アンケートでは、スポーツボランティアを行う動機づけとして、出会い・交流の場であると回答した人が一番多く、ボランティア活動を行う中で、新たな出会いや交流を求めていることがわかりました。 これまで通り、地域貢献や好きなスポーツの普及が行える場になることは継続しながらも、ボランティアスタッフ同士が交流できるような環境を整備することで、これまでボランティアとして各種大会等に参加したことが無い人たちも参加したいと思える場を提供します。 また、ボランティアを必要とする大会や団体と連携することで、ボランティアを行いたい人の情報を提供したり、イベント等の開催を促進します。</p>

第6章 “ささえるスポーツ”の推進

現行計画（左欄は現行計画冊子のページ）		審議会意見・スポーツ推進委員意見・市民アンケート結果等	見直し案
P.30	<p>重点施策 3 連携・協働の推進</p> <p>「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」の創出のためには、行政、学校、スポーツ団体及び民間事業者など、スポーツに関する多様な主体が連携・協働して、スポーツの推進に取り組んで行くことが重要です。</p>	<p>【審議会】</p> <p>○国はSC21等が部活動の受け皿となることを想定していると思われるため、これを視野に入れた地域の受け皿づくりが必要。</p> <p>○休日部活動の移行では、平日は教員、土日は地域の指導者となるので、生徒が混乱しないよう指導方法の相違の防止が必要。</p> <p>【スポーツ推進委員】</p> <p>○指導者の責任範囲(事故等の想定を含む。)、報酬、保障や、保護者の金銭負担、学校とのコミュニケーション方法が課題。</p> <p>○生徒のため、安定した部活動の継続が必要。</p> <p>○平日と休日での指導者の違いによる生徒の混乱・不安を懸念。練習指導や公式大会などの基本的事項について、教師と外部指導者とのコミュニケーション・連携が重要。</p>	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」の文案に、加筆修正。</p> <p>重点施策 3 連携・協働の推進</p> <p>「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」の創出のためには、行政、学校、スポーツ団体及び民間事業者など、スポーツに関する多様な主体が連携・協働して、スポーツの推進に取り組んで行くことが重要です。</p> <p>中学校部活動については、少子化や教員の業務負担軽減を背景に、地域に移行する方針を国が示しました。そこでは、地方公共団体は、令和5年度以降休日部活動を段階的に地域へ移行するよう努めることとされています。今後、円滑に地域に移行するには、行政、学校や地域、保護者、SC21や各スポーツ団体、事業者などが連携・協力して、指導者の確保をはじめ受け皿となる地域の組織体制づくりなど、環境整備に取り組む必要があります。</p>
P.30	<p>重点施策 3 連携・協働の推進</p> <p>取組1:スポーツ団体・行政・学校等における連携・協働を推進する</p> <p>現在少子化による教員の削減等により、部員が少ない部活動については、新入部員を停止して、休廃部にせざるを得ない状況であります。たとえ顧問がいたとしても、顧問自身も未経験の種目だと、生徒への指導も十分にはできません。従来のように学校教諭だけでは部活動で指導していくことは難しくなっています。そのため、地域の各種スポーツ団体等で指導者として活躍する人材の活用が必要です。</p> <p>地域のスポーツ団体や学校等と連携・協働し、地域で活動する優秀な人材を外部指導者として小中学校の部活動や体育の授業で活用する仕組みの構築を図ります。</p>	<p>【審議会】</p> <p>○財政面も大変だが、指導者確保は、それ以上に大変。地域の受け皿として、SC21がコミュニティスクールが考えられるが、いずれも現状は小学生対象で、人員的にも中学校部活動に対応できない。将来的には、スポーツ協会や教育関係機関が指導者を発掘し、地域での指導者として活動してもらうことが考えられる。国が行っている公認指導者研修会への参加補助や、市独自の研修会等の計画的な実施が重要。</p> <p>○今後、部活動移行に係る検討が、地域、保護者、スポーツ団体等も含めた組織で行われることも明らかにしておく方がよい。</p> <p>○現在の外部指導者でも、土日と休日の両方対応できる人は、なかなかおらず、人員確保に課題。</p> <p>【スポーツ推進委員】</p> <p>○SC21役員やスポーツ推進委員は高齢者も多く、地域だけでは指導者確保が難しい。大学生や若いアスリート経験者の確保のため、大学や企業などへの協力依頼が必要。</p> <p>○中学校の部活動の指導者確保には、小学校・中学校の校区にこだわらず、伊丹市としてどうやって子どもたちの育成をしていくかという視点が大事。</p> <p>○地域に任せるとしても、自治会、SC21だけでなく、大学、企業、スポーツ協会、高校等との連携が必要。</p>	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」の文案に、加筆修正。</p> <p>取組1:中学校部活動の地域移行に係る環境整備</p> <p>中学校部活動からの地域への円滑な移行と持続可能な体制づくりには、指導者の養成・確保が大きな課題です。</p> <p>現在、外部指導者には、教育に理解と識見を備えた地域住民や教員OB、卒業生等を派遣しています。今後、更に多くの指導者を確保するため、地域住民や学校関係者に限らず、大学や民間事業者、スポーツ協会等、様々な団体と連携し、より質の高い指導者の確保を図ります。</p> <p>指導者の養成については、市内での研修会の実施や他団体が実施する研修会等への参加や、公認資格の取得支援を行うことで、中学生の心身の育成を理解し、技術の向上に資する指導者の養成を図ります。</p> <p>また、地域移行に当たっては、指導者の確保だけでなく、その責任範囲の明確化、報酬、運営財源の確保、教員と指導者との連携方法、保護者の経費負担など、多くの課題があります。地域移行が、中学生の興味や関心に応じ、柔軟にスポーツに関わることができる継続的な場づくりとなるとともに、スポーツ技術や体力の向上と精神的な成長、スポーツを介した地域での交流の促進など、子どもの心身の成長につながる機会の提供となるよう、環境を整備する必要があります。</p> <p>これらの課題について、情報を収集し、学校、地域のスポーツ団体やスポーツ推進委員、保護者その他の関係者からなる協議の場を設け、検討を行います。大学や事業者など幅広い主体との連携も視野に、持続可能で安定的な体制づくりに取り組めます。</p>
P.30	<p style="text-align: right;">修正追加</p> <p>取組2:伊丹市体育協会、伊丹市スポーツ推進委員会、伊丹市中学校体育連盟等の連携・協働を進める</p> <p>伊丹市内では、伊丹市体育協会、伊丹市スポーツ推進委員会、伊丹市中学校体育連盟等多くのスポーツ団体が活動しています。それぞれの団体での活動は活発ですが、各団体間のつながりは薄く、連携・協働した事業展開が難しいのが現状です。行政として、各種団体がつながるきっかけづくりに努め、交流を支援することにより、団体間の連携・協働を推進します。</p>	<p>【その他】</p> <p>○第4章「スポーツクラブ21の充実」を新たに重点施策に設ける中、スポーツクラブ21は関係団体との連携・協働に大きな役割を担う団体として期待されているため団体名称を追加。</p>	<p>取組2:伊丹市スポーツ協会、伊丹市スポーツ推進委員会、伊丹市中学校体育連盟、スポーツクラブ21等の連携・協働を進める</p> <p>伊丹市内では、伊丹市スポーツ協会、伊丹市スポーツ推進委員会、伊丹市中学校体育連盟、スポーツクラブ21等多くのスポーツ団体が活動しています。それぞれの団体での活動は活発ですが、各団体間のつながりは薄く、連携・協働した事業展開が難しいのが現状です。行政として、各種団体がつながるきっかけづくりに努め、交流を支援することにより、団体間の連携・協働を推進します。</p>

第7章 “伊丹ならではのスポーツ”の推進

現行計画（左欄は現行計画冊子のページ）		審議会意見・スポーツ推進委員意見・市民アンケート結果等	見直し案
P.33	<p style="text-align: right;">修正追加</p> <p>取組2: 子どもから高齢者、障がい者が実施できる体操プログラム(たみまる体操:仮称)を開発する 市民の健康増進を目的に、子どもから高齢者まで日々身体を動かす習慣付けのきっかけとするために、伊丹市オリジナルの全身運動体操「伊丹たみまる体操(仮称)」の開発を検討します。本体操を健康づくりのツールとして市民に広くPRし、市民が生活の中で気軽に楽しく効果的に運動習慣を身につけられるよう普及啓発していきます。</p>	<p>【その他】</p> <p>○令和2年度に「デジタル巡回ラジオ体操会」を実施し、YouTubeで実施動画の配信を行った。ラジオ体操は、健康効果も高く、多くの国民に馴染みがあるため、新たにオリジナルの体操を作るのではなく、ラジオ体操をはじめとした既存の気軽に実施できる体操の普及を図っていくため削除。</p>	—
P.34	<p style="text-align: right;">修正追加</p> <p>取組3: 伊丹市におけるスポーツ文化の資源を掘り起こし、充実する 伊丹市のスポーツ文化や伝統的スポーツ(相撲、なぎなたなど)に係る資料や情報の収集を行い、市のホームページやスポーツ施設において市民への情報提供を推進します。</p>	<p>【その他】</p> <p>○伊丹市にゆかりのあるスポーツやアスリートの情報を市民へ発信することについて、施設に限らず、オンラインの活用を追加し、取組としては3・4を集約する。</p>	<p>取組2: 伊丹市におけるスポーツ文化の情報発信について 市民のスポーツへの興味や関心が高まるよう、伊丹市のスポーツ文化・伝統的スポーツ(相撲、なぎなたなど)や伊丹にゆかりのあるアスリート等に係る資料を収集し、スポーツ施設をはじめとした公共施設やオンライン環境を活用し、市民へ情報を発信します。</p>
P.34	<p>取組4: 伊丹スポーツミュージアム(仮称)の整備と充実を進める 既存施設の一部を活用し、伊丹にゆかりのあるアスリートやコーチの関係グッズなどを集めて展示することにより、市民がスポーツへの興味、関心を深めていただけるようスポーツミュージアムの整備を図ります。</p>		
P.34	<p style="text-align: right;">修正追加</p> <p>取組6: スポーツ団体や地域団体及び周辺地域が連携・協働し、伊丹らしい市民マラソン大会を開発する 近年、マラソンの人気が高まっており、伊丹市内でも朝夕ランニングしている方が多く見られます。また、従来市主催で開催していたサタデージョギング教室においても、参加者が多く人気があった教室であり、参加者のなかには全国各地で開催されているマラソン大会に出場されている方もおられたこともあり、伊丹市内での開催を望む声が多く聞かれました。 伊丹市だけでコースを取ることは難しいため、川西市や池田市等と連携し、猪名川河川敷等を活用したフルマラソン、ハーフマラソンの大会を開催できるよう、関係機関等との協議・調整を図ります。</p>	<p>【その他】</p> <p>○フルマラソン等の開催検討を行ったが、他市との連携においても、フルマラソンの距離を確保することが困難であると判断したため。</p>	<p>取組4: スポーツ団体や地域団体及び周辺地域が連携・協働し、伊丹らしい市民マラソン大会を開発する 近年、マラソンの人気が高まっており、伊丹市内でも朝夕ランニングしている方が多く見られます。また、従来市主催で開催していたサタデージョギング教室においても、参加者が多く人気があった教室であり、参加者のなかには全国各地で開催されているマラソン大会に出場されている方もおられます。市内でも引き続き、瑞ヶ池周回コースによるマラソン大会を実施するとともに、猪名川河川敷等、新たなコースを活用したマラソン大会の開催を検討します。</p>
P.37	<p style="text-align: right;">修正追加</p> <p>取組2: ウォーキングやジョギング、サイクリング、スポーツ施設などに関するアプリ開発を推進する 市民意識調査の結果でも今後やってみたいスポーツとして人気が高かったウォーキング、ジョギング、サイクリング等を実際にやってみたい、楽しみながら続けたいと思えるよう、おすすめコースや立ち寄りスポット、スポーツ豆知識、カロリー消費量などの情報を盛り込んだアプリの開発を検討します。また、アプリを通じて、個人の活動からグループでの活動となるようスポーツを通じたコミュニティづくりにもつながるよう働きかけます。</p>	<p>【スポーツ推進委員】</p> <p>○スポーツマップを今すぐ作るべき。</p> <p>【市民アンケート】</p> <p>○問7「あなたが、この1年間に行ったスポーツ・運動は何ですか」について、回答数の1位が散歩・ウォーキング、2位がジョギング・ランニング、4位がサイクリングであった。 →現状を追加。</p>	<p>取組2: ウォーキングやジョギング、サイクリング、スポーツ施設などに関する情報提供を推進する 市民アンケートの結果において、この1年間に行ったスポーツおよび今後やってみたいスポーツの上位であった、ウォーキング、ジョギング、サイクリング等を実際にやってみたい、楽しみながら続けたいと思えるよう、おすすめコースや立ち寄りスポット、スポーツ豆知識、カロリー消費量などの情報を盛り込んだ伊丹スポーツマップを作成します。また、1人でスポーツを行っている人が、グループでの活動も行えるよう、既存のスポーツコミュニティに関する情報提供を支援します。</p>

第7章 “伊丹ならではのスポーツ”の推進

現行計画（左欄は現行計画冊子のページ）		審議会意見・スポーツ推進委員意見・市民アンケート結果等	見直し案
重点施策5 スポーツにおけるDXを推進する	新規追加	<p>【審議会】 ○資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」に対して、意見なし。</p> <p>【スポーツ推進委員】 ○DXの推進は、第4章するスポーツの推進のP.23以降ではなく、第7章伊丹ならではのスポーツの推進、重点施策4の後に入れた方が良い。</p>	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」の文案に、加筆修正。</p> <p>重点施策5 スポーツにおけるDXを推進する IT化が進展する中、新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛等の影響により、デジタル技術の利活用や環境整備が急速に進展するとともに、在宅でできるスポーツ活動に対する需要が高まりました。これを機にデジタル技術の活用を推進します。</p>
	新規追加	<p>【審議会】 資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」に対して、意見なし。</p> <p>【スポーツ推進委員】 ○ニュースポーツの紹介などを映像でまとめると、わかりやすい。 ○資料3の文案の冒頭が「地域で孤立、健康上の理由、障害等」となっており、一部が対象の印象が強くなる。誰もが対象であるように読める表現にした方が良い。</p>	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」の文案に、加筆修正。</p> <p>取組1: デジタル技術を活用したスポーツ活動の推進 スポーツを実施している人をはじめ、健康上の理由や障害、仕事や育児、介護等でスポーツができていない人も含め、多様な市民誰もが気軽にスポーツ活動にアクセスできるよう、リモートによる体操教室等の双方向的な交流を生むスポーツの機会、時間を問わず1人から少人数で活用できるトレーニング動画やニュースポーツの動画による紹介等、デジタル技術を活用したスポーツ活動を推進します。</p>
	新規追加	<p>【審議会】 資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」に対して、意見なし。</p>	<p>※資料3「伊丹市スポーツ推進計画中間見直し事項骨子(素案)」の文案に、加筆修正。</p> <p>取組2: デジタル技術によるデータの活用 “する、みる、ささえるスポーツ”の実効性を高めるため、スポーツにおけるデジタル技術の活用に関する情報収集を行い、スポーツ団体・行政・学校等の関係者で共有し、様々な課題への活用等について、調査・研究を行います。</p>